

# 調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議長 槻山 隆 様



報告年月日	平成 30年7月23日										
実施日(期間)	平成 30年6月24日(1日日帰り)										
実施場所 (行先等)	盛岡市アイーナ										
事業区分 (いずれかに○)	<input checked="" type="radio"/> 研 修    調査研究    要望・陳情活動    会 議										
事業内容	講演会「縮小時代における公共交通の考え方」に参加し、当市の地域交通の取り組みに資する										
報告者	(会派名日本共産党一関市議団(代表者)藤野秋男( )										
参加者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">議員 藤野秋男 ( )</td> <td style="width: 50%;">議員 石山健 ( )</td> </tr> <tr> <td>議員 岡田もとみ ( )</td> <td>議員 菅野恒信 ( )</td> </tr> <tr> <td>議員 ( ) ( )</td> <td>議員 ( ) ( )</td> </tr> <tr> <td>議員 ( ) ( )</td> <td>議員 ( ) ( )</td> </tr> <tr> <td>議員 ( ) ( )</td> <td>議員 ( ) ( )</td> </tr> </table>	議員 藤野秋男 ( )	議員 石山健 ( )	議員 岡田もとみ ( )	議員 菅野恒信 ( )	議員 ( ) ( )	議員 ( ) ( )	議員 ( ) ( )	議員 ( ) ( )	議員 ( ) ( )	議員 ( ) ( )
議員 藤野秋男 ( )	議員 石山健 ( )										
議員 岡田もとみ ( )	議員 菅野恒信 ( )										
議員 ( ) ( )	議員 ( ) ( )										
議員 ( ) ( )	議員 ( ) ( )										
議員 ( ) ( )	議員 ( ) ( )										
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙(1) 2. 概要・・・・・・・・別紙(2) 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙(3)										
主要 資料名	講演レジュメ 「縮小時代における公共交通の考え方」(要旨)										

## 1. 別紙 (1)

目的 別紙チラシ (A) のとおり、人口減少/  
少子高齢化など地域は厳しい状況置かれており、地域の公共交通の  
歴史や課題を振り返り、自治体の今後の課題と方向性を学ぶ。

## 2. 別紙 (2) レジюме参照

概要 ①地方都市の現状 (人口 インフラ など表や図でつかむ)  
②公共交通の現状 (利用者 バス路線数 運転手 などつかむ)  
③バスの規制緩和と自治体の公共交通政策 などをつかむ)  
④縮小時代の公共交通政策を学ぶ (オランダ 武蔵野市 滝沢市)

## 3. 別紙 (3)

### 参考とすべき事項・所感

- ① 主催者のNPO法人岩手地域総合研究所は、今の市町村の現状を、人口・産業・雇用・福祉・教育など総合的に、「岩手の再生」として講演会・シンポを開催しているようであり、私達議員には刺激・参考になる場です。スタッフも岩手大学・県立大学の先生方が多く、県内事情に精通しているので分かりやすい講演・説明です。
- ② 今回の地域交通について、講師はチラシにも紹介されていますが、国土交通省の委員などに就いていること、また盛岡市・滝沢市・矢巾町の地域公共交通会議会長として住民・現場感覚を身につけており参考になる講演内容である。
- ③ レジюме15～16Pに、バス会社の収支状況と乗合バスの路線廃止状況、コミュニティのグラフがあり、当市も含め国の地方創生事業として抜本的な政策が必要であると痛感する。運転手の高齢化と不足も深刻であり、早期に抜本的対応を検討すべきと考える。
- ④ 25Pには「それぞれの責務」とあって、国・自治体・事業者・国民などの役割が書かれている。  
26～28Pには自治体の責務について具体的検討課題が書かれているので参考にしたい。
- ⑤ 市政調査会などが主催して全議員で勉強する企画を期待したい。

NPO法人岩手地域総合研究所 2018 年度通常総会記念講演

# 縮小時代における公共交通の考え方

人口減少、地域経済縮小等によって、地域は厳しい状況に置かれています。縮小時代に応じたまちづくりが重要ですが、モータリゼーションはさらに進み、併せて、無秩序な宅地等の開発が多く見られるなど、実態は真逆の状態です。今回は、地域の公共交通の歴史や課題を振り返り、国や自治体の取組、今後の方向性などについてお話しします。

せいじ

**講師：宇佐美誠史さん** 岩手県立大学 総合政策学部 准教授



## 《講師 プロフィール》

- 所属 岩手県立大学 総合政策学部 准教授
- 学歴 福井大学大学院工学研究科 博士課程修了 工学博士
- 専門 交通政策 都市計画
- 経歴 2016年4月 岩手県立大学 講師  
2018年4月 同 准教授 現在に至る
- 学会 日本都市計画学会 交通工学研究会
- 委員等 地域公共交通東北仕事人（国土交通省東北運輸局）  
道路ドクター（国土交通省東北地方整備局）  
地域公共交通会議会長（盛岡市、滝沢市、矢巾町）  
都市計画審議会会長（滝沢市、宮古市）

○日時：6月24日（日）13:00～14:30

○場所：アイーナ 8階 804A 会議室

（盛岡駅西口 TEL 019-606-1717）

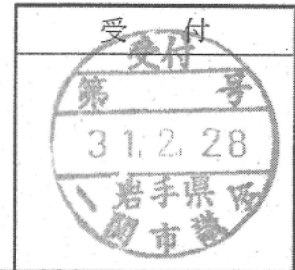
○参加費：無料 どなたでも参加できます

講演後、研究所の総会を開催しますので、会員の皆さまの出席をお願いします。

問合せ先 TEL：019-624-6715（fax 同） メール：i-chiikisouken@salsa.ocn.ne.jp

# 調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議長 槻山 隆 様



報告年月日	平成31年2月28日	
実施日(期間)	平成31年1月28日～平成31年1月29日	
実施場所 (行先等)	1、 特定非営利活動法人(NPO) くちない・・北上市内町 2、 超小型木質バイオマス発電装置・・北秋田市道の駅たかなす	
事業区分 (いずれかに○)	研 修 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究 要望・陳情活動 会 議	
事業内容	1、 NPO 法人を立ち上げ、口内町地域内の課題である高齢者の足の確保や特産品の開発・販売を実施している。 2、 地域の森林資源をチップ化し燃料として活用する、超小型バイオマス発電で、環境に配慮し経済的な取り組みに市が支援している。	
報告者	(会派名) 日本共産党一関市議団	(代表者) 藤野 秋 男
参加者	議 員 藤野 秋男	議 員 岡田もとみ
	議 員 石山 健	議 員 菅野 恒信
	議 員	議 員
	議 員	議 員
報告要旨	1. 目的・・・・別紙(1) 2. 概要・・・・別紙(2) 3. 参考とすべき事項・所感・・・・別紙(3)	
主 要 資料名	1、「NPO 法人くちない」事業説明資料	
	2、超小型バイオマスシステム VOLTER40 説明資料	

\* 「NPO法人くちない」の事業を視察して

## 別紙（1）

### 1. 目的

- 1、 高齢化が特に深刻な農村部の課題である地域コミュニティの維持や病院や買い物等の交通手段の確保が重要な課題となっていることから取組を視察研修するため

## 別紙（2）

### 2. 概要

別紙資料参照

## 別紙（3）

### 3. 参考とすべき事項・所感

地域から「困った」の声が増え、このまま人口減や高齢化率が進行すれば地域コミュニティの維持が困難になると「NPO法人くちない」を立ち上げ高齢者の通院や買い物の足を地域で対応している。この取組は、当市の周辺地域である農村部にとっても重要な施策である。更に、この事業を維持するため、地域の特産を加工し学校給食や販売に結びつけるなど地域経済にも貢献している。

今後、当市の施策にも生かせる取組であった。

\* 超小型バイオマス発電装置の視察について

別紙（１）

1. 目的

- 1、 地域資源である木材を活用した電力と熱の供給で地域産業の振興策の創出が図れないか調査するため
- 2、 超小型であることから、各施設や団体で活用できないか調査するため

別紙（２）

2. 概要

別紙資料参照

別紙（３）

3. 参考とすべき事項・所感

- 1、 地域資源を生かした発電設備は、比較的に大型の設備が一般的だが視察した施設は、幅 1.2M×長さ 4.8M×高さ 2.5Mとコンパクトであり、設置場所が容易に確保できる。
- 2、 売電のみを目的とする大型プラントとは一線を画し、電力 40KW・熱量 100KWという特性を活かすことで、学校・介護施設等の公共施設で活用できること。
- 3、 燃料がチップであることから雇用の場の確保となり、地域循環型経済の構築に繋がる。

# 調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議長 槻山隆様



報告年月日	平成31年3月5日		
実施日(期間)	平成31年2月6日～平成31年2月7日		
実施場所 (行先等)	東京都小金井市前原町3-3-25 小金井市商工会館 NPO法人多摩住民自治研究所・第35回議員の学校		
事業区分 (いずれかに○)	○ 研 修 調査研究 要望・陳情活動 会 議		
事業内容	35回を数える「議員の学校」として開催されたもので、2019年度政府予算(案)と地方財政の特徴及び社会保障の予算と事業などの講演と参加議員との交流。		
報告者	(会派名) 日本共産党一関市議団 (代表者) 藤野秋男 印		
参加者	議 員	菅野恒信	議 員 印
	議 員	印	議 員 印
	議 員	印	議 員 印
	議 員	印	議 員 印
	議 員	印	議 員 印
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・・・別紙 2. 概要・・・・・・・・・・別紙 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙		
主要 資料名	講義が4回あり、資料はすべて膨大であることから、一部を抜粋して添付。		
	講義1、財政破たんに向かう!?アベノミクス。講義4、憲法原則から考える財政民主主義と地方財政。		

別紙

1、目的 別紙 案内状参照

2、概要 別紙 講義内容（学校の時間割）と講義内容抜粋

3、参考とすべき事項・所感

- (1) 2019年度政府予算（案）と地方財政・社会保障予算を豊富な資料で説明してくれたので参考になった。大学や研究所で財政を専門的に教えている方々の説明は説得力があった。
- (2) 憲法がないがしろにされている政治現実の中で、憲法原則から国家財政や地方財政の在り方を学んで良かった。明治憲法下、地方自治制度ががないもとでの地方支配の説明は、戦争法が法制化され、改憲の危機がある昨今、今後の大事な課題として学ぶことができた。
- (3) 40数人ほどの地方議員の参加で、質問もしやすい雰囲気学ぶことができた。栗原市から4人、秋田県・山形県など東北の参加者もいて楽しい学校であった。  
卒業がない学校で、機会があったらまた参加し、一関市政と市民生活の向上に貢献できれば幸いである。



2018年12月

これまで「議員の学校」に参加された皆さまへ

NPO 法人多摩住民自治研究所  
理事長 八幡 一秀

## 「第35回 議員の学校」のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より当研究所の活動へのご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当研究所では2019年2月6日(水)、7日(木)に第35回「議員の学校」を開催いたします。今回のテーマは次のとおりです。

### 《テーマ》

財政破たん?アベノミクスに未来はあるか  
～基本から学ぶ日本経済・財政と地方自治～

今回の「議員の学校」では日本経済の現状について、アベノミクスによる金融政策の効果と、消費税引き上げを予定している2019年度政府予算と、今後の財政計画・地方財政のあり方について学びます。

講師には、立命館大学教授の森裕之氏に、「財政破たんに向かう?! 一日本経済の現状と今後～消費税10%、市民の暮らしと自治体はどうなる～」と「2019年度政府予算と地方財政の課題～初の100兆円予算(見込み)と地方財政計画を学ぶ～」をテーマに、2コマ続けてご講義いただきます。

このほか、「2019年度社会保障関係予算と市民の暮らし～政府の『全世代型社会保障』の提唱と実際～」石川満氏(元日本福祉大学教授)、「憲法原則から考える財政民主主義と地方財政」池上洋通氏(「議員の学校」学校長)がお話しします。

どの講義も今後の財政と地方自治を考える上で、議員のみなさまの関心に応えるものと存じます。ご参加をお待ち申し上げます。

### ◆連絡先

NPO 法人多摩住民自治研究所

〒191-0016 東京都日野市神明 3-10-5 エスプリ日野 103

Tel 042-586-7651 Fax 042-514-8096 E-mail tamajitiken1972@space.ocn.ne.jp

## 第35回 議員の学校 時間割

2/6 (水)

- 12:55 開会の言葉、ガイダンス
- 13:00 講義1 森 裕之  
質疑応答
- 15:20 休憩
- 15:35 講義2 森 裕之  
質疑応答
- 17:55 1日目終了

2/7 (木)

- 9:15 実践報告 川島 芳男
- 9:55 休憩
- 10:10 講義3 石川 満
- 12:30 昼食・休憩
- 13:30 講義4 池上 洋通
- 15:20 休憩
- 15:30 全体にわたる質疑応答
- 17:00 修了証及び次回学校開催  
計画のお知らせ、解散